

# ● 宿泊税の使途

## 観光課題

国内及び伊勢市においても人口減少や少子高齢化が進展する中、第63回神宮式年遷宮に向け、来訪者の増加を見込んでおり、訪れる人だけでなく住む人も満足できる持続可能な観光振興、経済の好循環化に取り組む必要があります。



### 二次交通

- ・ タクシー不足
- ・ バスドライバー不足
- ・ 公共交通利用促進

### 周遊促進

- ・ 良好な滞在環境
- ・ 観光消費拡大や経済循環
- ・ 観光コンテンツ強化・充実

### 宿泊の魅力向上

- ・ 宿泊による滞在価値向上
- ・ 宿泊型観光誘客支援
- ・ 人材、後継者不足

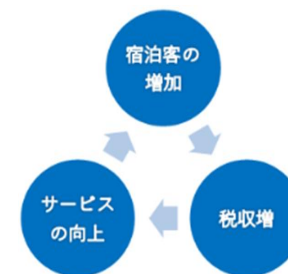


### インバウンド

- ・ 対応可能な人材確保
- ・ 受入環境整備
- ・ 認知度向上、来訪促進

### 観光危機管理

- ・ 自然災害、帰宅困難者対策
- ・ 大幅な来訪者増への対応
- ・ 大規模イベント・催事対応



地域経済活性化、好循環のイメージ

## (1) 5年間で活用を想定する事業費

【A】宿泊税収入:850,000千円(5年総額)[200円×85万人(※)×5年]

※宿泊者数は近年の実績に基づき想定しています。上記収入には、今後新設を予定している宿泊施設の宿泊税額は含んでいません。

【B】特別報償金:25,500千円【【A】×(2.5%+0.5%)】

【A】－【B】＝ **824,500千円**

## (2) 使途の三本柱

宿泊税の使途については、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地づくりのため、「①来訪者の満足度、受入環境の向上」、「②観光資源の発掘、磨き上げ」、「③持続可能な観光地づくり」を三本柱に取り組みます。なお、概ね5年の間に行う事業を示しています。

### ①来訪者の満足度、受入環境の向上



ライドシェア促進	観光客及び市民もタクシー不足により利用できない状況にある。担い手不足が一因であるため、速やかに解消する事業として、ライドシェアを促進する。 ※ライドシェア：タクシー事業者の管理のもと、地域の自家用車・一般ドライバーが有償で運送サービスを提供するもの
自動運転バス導入	主要な観光路線において「自動運転レベル4」の大型バス有償運行を目指す。国補助を受けながら、実証実験を行っているが、ドライバー不足や将来的な各路線確保を見据えて取り組みを強化する。
サイクルツーリズム推進	旅行形態の多様化や健康志向への対応のほか、交通混雑回避策として、自転車を活用しやすい環境を整えるため、宿泊施設や観光事業所へのサイクルラック設置の支援等を行う。
サイン整備	観光地や文化関連施設へ誘導するサイン等について、景観に配慮した更新を行う。このほか、特に外国人旅行者には、交通機関の乗降や乗り換えが分かりづらいという課題への対策として、英語併記や案内を行う。
観光客受入基盤整備	手荷物預かり所の機能向上や、市内各地に設置されている観光地周辺トイレの洋式化や多目的化、照明の長寿命化のほか、防犯カメラを活用した防犯対策の強化を行う。
宿泊施設改修の支援	観光客受け入れのために、宿泊施設の価値を高める改修（トイレ洋式化や多目的化、増築、バリアフリー対応等）を行う際に一定の補助等の支援を行う（ただし、国・県の支援制度との併用は不可を前提とする）。
インバウンド受入支援	市の歴史や文化を生かした体験コンテンツを増やすとともに、訪日外国人から日本の精神文化を知る観光地として選ばれるようインタープリターの養成及び利用促進を行う。

## ②観光資源の発掘、磨き上げ

公共交通利用 ・魅力ある歩行空間創出	鉄道利用者の玄関口である主要駅周辺のにぎわいや、滞在時間の延伸・周遊性を高めるため、外宮参道や二見地区、伊勢市駅前商店街、高柳商店街、新道商店街等の町並み整備や、物語性などに基いた散策資源への誘導など、滞在空間やまちなかのウォーカブル等、歩行空間の創出を推進する。
文化観光の推進	令和8年開館予定の「郷土資料館」や改修後の「賓日館」における文化財・伝統行事等企画展示や市内の歴史・文化を生かした施設等への周遊促進により、知的好奇心を満たす観光の促進と満足度向上を図る。
平日宿泊等促進	地域経済を維持・拡大するため、旅行会社や、マーケティングに基づくターゲット層への平日限定企画や早朝夜間などのコンテンツを生かしたクーポン発行等のキャンペーンにより、旅行者の分散来訪を促進する。

## ③持続可能な観光地づくり

景観保全	旅行者が滞在期間を快適に過ごすことができるよう、観光客が訪れたり通過する景観の保全や環境維持のための対応を強化する。また公共施設マネジメントに基づく整備・改修を行う。
帰宅困難者用の 備蓄物資配備	南海トラフ地震の発生など、災害発生時には、多数の観光客が帰宅困難者となる。その備えとして、内宮エリア、外宮エリア、二見エリアへの対応を想定した備蓄物資を配備する。
観光バリアフリー促進	個々のバリアに対応するための情報収集・発信を強化する。また、障がい者サポーター登録支援等によりインクルーシブな観光を支える人材育成を行う。
団体旅行の誘致促進	大規模なスポーツ大会、文化大会、学生団体の誘致促進により、宿泊を伴う誘客や将来的な再来訪推進を図る。
観光人材育成	災害が発生した際、旅行者の不安は非常に大きいため、観光事業従事者の防災士資格取得支援やインバウンド需要に対応できる人材を増やす勉強会等を実施する。
観光マーケティングの推進	伊勢に愛着をもつ顧客層や、さまざまな年代が伊勢を訪れる効果的な機会提供を行うためのマーケティング調査を推進する。